務之云、

〔七十一番歌合中〕卅六番　左

いかにせん五條のはしのゑたむせびはてはなみだのながれくわんぢやう　いたか

〔山城名勝志十五郡愛宕〕五條橋

元架五條末鴨河天正十八年件ノ橋ヲ六條坊門ニ引渡サル然猶呼五條橋也今五條河原ニ昔ノ橋柱朽殘テ二三柱見ユ、

〔十三朝紀聞二後光明〕正保二年十一月先是幕府修五條石橋令觀音寺舜興等監工至是成後數十年更其欄板木造之此橋當時已在六條坊門而其稱五條以原架五條磧也古者鴨川諸橋中五條七條石造至應仁猶存其後京師久亂諸橋概廢及天正中秀吉東征發京師徙四條橋于三條五條橋于坊門修之云、

〔都名所圖會二〕五條橋は初は松原通にあり則いにしへの五條通也秀吉公の時此所にうつす故に五條橋通といふ實は六條坊門也欄干には紫銅擬寶珠左右に十六本ありて北の方西より四ツ目に橋の銘あり雜陽五條石橋正保二年乙酉十一月吉日、

奉行　蘆浦觀音寺舜興　小川藤左衛門尉正長

〔醍醐隨筆下〕去ぬる壬寅〇寛文二年五月一日京師大地震感神院の石の華表たをれて微塵となる五條の石橋ことゞく碎て川をうづむ、

〔都のにぎはひ〕四條橋新造之記

五條橋は正保二酉年十一月總石橋に御造替有しが寛文二寅年五月朔日大地震にて崩落以前の如く板橋と成る此時五條橋の石材をば繩手大和橋并に三條白川橋又堀川通三條中立賣下立賣の諸橋へわかち引れしが中立賣下立賣の兩橋は崩れて今板橋に改たまる〇又見地名便覽